



アメリカで介護を学ぶ学生を動機づける方法と効果的な看護教育ストラテジー

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-09-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 裕子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00005579

研究報告

アメリカで看護を学ぶ学生を動機づける方法と 効果的な看護教育ストラテジー

The perceptions of motivational methods and effective nursing education strategies among the students who study nursing in the United States

山本 裕子

Yuko YAMAMOTO

キーワード：アメリカ，看護教育，看護学生，学習者中心アプローチ

Key words: United States, Nursing Education, Nursing Student, Student-Centered Instruction

Abstract

This study explored the perceptions of motivational methods and effective nursing education strategies among nursing students in the United States. A convenient sample of 10 nursing students in the U.S. was interviewed. The interviews were audio-taped and transcribed by the investigator. Words, phrases and sentences that similarly described specific aspects of nursing education were categorized.

The following results were obtained. The nursing students were motivated by the aspiration to be a nurse, working with peers, attitudes of faculty members, learning from nursing experiences and a sense of refreshment. Nursing students also considered the structured instructional curriculum, utilization of nursing experiences, a variety of instructional techniques, and student-centered learning strategies to be effective nursing education strategies.

In conclusion, the perceptions of effective nursing education strategies among students who study nursing in the U.S corresponded to student-centered instruction.

要 旨

われわれが看護教育を行う上で一助となるように、アメリカで学ぶ看護学生はどのように動機づけられ、どのような看護教育ストラテジーが効果的であると考えているかを明らかにすることを目的として、アメリカのA大学看護学部の学生10名を対象に半構成的面接調査を実施した。面接内容は録音し、逐語録として分析に用い、サブカテゴリー、カテゴリーを抽出した。その結果、看護学生を動機づける方法として、【看護師志望】【友人との学び】【教員の姿勢】【看護経験からの学び】【リフレッシュ】の5つのカテゴリーが、効果的な看護教育ストラテジーとして、【構造化されたカリキュラム】【看護経験の活用】【工夫された講義】【学生中心の学習方法】の4つのカテゴリーが見出せた。アメリカで学ぶ看護学生は、学習者中心アプローチに対して肯定的であることが窺え、学生が主体的に学べるように精練された看護教育を行う必要性が示唆された。

I. はじめに

アメリカにおいて、疾病構造の変化、科学技術の発達、人口動態の変化、消費者意識の向上に伴うヘルスケアシステムの急激な変化は、この20年間に看護教育の変化をももたらした (AACN, 1998 ; Mawn & Reece, 2000 ; Callister & colleague,

2005)。例えば、消費者意識と要求の増大により、専門職業人教育のアウトカムが求められるようになったことや、ヘルスケアシステムの変化に対応できる看護師が求められるようになったことである。そこで、専門職業人として、柔軟性、説明責任、リーダーシップ、自律性、生涯学習のような特性を含んだ学士号をもつ看護師が必要とされるようになった (Clark, 2004)。そのような専門職業人としての看護師の教育には、学習者中心アプロ

一チが合致している (Conti, 1990)。現在、アメリカの看護教育の主流は成人教育理論に基づいた学習者中心アプローチへの転換がはかられている。

学習者中心アプローチは、学習するものの主体性が尊重され、教員の役割は単なる知識・情報の提供者ではなく、メンターでありファシリテーターとなる。また、授業は教員が作るのではなく、学習環境や内容、評価に至るまで学生とともに作り上げていくことが望まれている。学習者中心アプローチのもとで、学生は主体的に学び、クリティカルシンキングスキルを発展させ、エンパワーされ、専門職業人としての能力を発展させていくといわれており、またその結果、生涯学習者としての態度を身につけていくとされている (Conti, 1990)。

しかし、Schaefer and Zygmunt (2003) は、Conti (1990) が開発した教員の教育スタイルが学習者中心か教員中心かを測定するPALS (The Principles of Adult Learning Scale) を用いた量的調査結果と教員の自由記述の分析を行った結果から、教員は学習者中心アプローチが看護教育において推奨されていることを認知しているものの、依然教員中心アプローチからの転換が困難な現状であることを示唆している。

一方、Chipas (1995) が、学習者中心アプローチは学習プロセスに多いに満足し、高いクリティカルシンキングスキルをもつ学生を生み出すことを示唆している反面、Burnard and Morrison (1992) は、学生は教員主導の学習経験を好むことを示している。このように看護教育が学習者中心アプローチへの転換が図られるなかで、それに対する一定の評価は得られていない。さらに、学生の認識に基づいた看護教育に対する評価に関する研究は十分ではない。

学習者中心アプローチに対する一定の評価のないなかで、アメリカで学ぶ看護学生は、実際にはどのように動機づけられ、どのような看護教育ストラテジーが効果的であると考えているかを明らかにすることは、学習者中心アプローチへの転換が図られつつある (中山, 2006) わが国の看護教育においても参考となると考えられる。

II. 研究目的

アメリカで学ぶ看護学生はどのように動機づけられ、どのような看護教育ストラテジーが効果的であると考えているかを明らかにすること。

III. 方法

1. 調査対象

アメリカ東部に位置するA大学看護学部在籍する看護学生10名。

2. 調査期間

2006年3月15日から4月21日

3. データ収集法

半構成的面接調査を行った。質問内容は、①看護学生を動機づける方法 (How are you motivated?) と②看護学生の考える効果的な看護教育ストラテジー (What do you think the effective nursing education strategy?) とした。

対象は、筆者が特別学生として滞在したA大看護学部の教員に紹介してもらったり、A大学看護学部の看護学生協会というサークルのミーティングで筆者が研究参加を依頼するといった方法により、参加を了解した学生に対してe-mailで面接時間・場所の打ち合わせを行った。参加を了解した学生のうち3名は時間が合わない、多忙であるといった理由で面接が行えなかったため、再度教員や参加した学生に対象となる学生を紹介してもらい10名の対象を得た。

調査内容については指導教授による指導を受け、面接前にはESL (English as second language: 英語を母国語としない学生対象の英語コース) の専任教員に対して事前面接を実施し、発音の確認を行った。

面接内容は許可を得て録音し、逐語録とした。録音を拒否した1名については筆記し、筆記内容を確認してもらいながら面接を進めた。逐語録の作成は筆者が行ったほか、ネイティブスピーカーによる逐語録の作成を業者に委託して、語られた内容の正確性を確認した。

4. データ分析法

データ分析は、10名のデータを収集した後に行った。逐語録からテーマに即した文章の意味内容を分析して比較分類し、サブカテゴリー、カテゴリーを抽出した。分析にあたっては、A大学看護学部教授の指導を受けた。

5. 倫理的配慮

A大学のIRB (Institutional Review Board: 研究倫理審査委員会) に研究計画書および倫理審査申請書を提出し、その承認を得て調査を行った。イ

ンフォームドコンセントの方法については、面接前に文書を用いて研究の主旨と方法、匿名性の厳守および研究参加は自由意思に基づき拒否の権利があること、学会発表や研究論文としての公表の可能性、筆者の連絡先について説明を行い、同意書にサインを得た。また、研究データの取扱いについては匿名性を厳守し、同意書とは別にして保管した。

IV. 結果

1. 対象の背景

全員が女性で、アメリカ人6名、留学生4名(オマーン、中国、日本、ミャンマー各1名)。平均年齢は 24.8 ± 8.12 歳(19歳~42歳)、1年生2名、2年生2名、3年生3名、4年生3名。一般入学生7名、編入生3名であった。

2. 看護学生を動機づける方法

看護学生を動機づける方法として、【看護師志望】【友人との学び】【教員の姿勢】【看護経験からの学び】【リフレッシュ】の5つのカテゴリが見出された(表1)。ここではカテゴリを【 】、サブカテゴリを『 』、具体的内容を「 」で表した。

1) 【看護師志望】

『看護師になりたい思い』であり、看護を志向する動機となっていた。具体的内容例を以下に示す。

「私のお母さんは看護師で、学校がない時などよく病院に行っていた。患者を見ていて私もいつも看護師になりたいと思っていた(No.1)」

「私は教師か医師になりたいと思っていた。看護師のことを知るうちに看護師は教えることと医療分野の2つ

の技術を結びつけたものだとわかったので、看護師になりたいと思った(No.2)」

「私は医療分野に興味があったし、人をケアしたいと思っていたから看護師になりたいと思った。だからここにいる(No.6)」

2) 【友人との学び】

『ピアラーニング』『ピアサポート』という友人との関係のなかで支え合い、学び合うことも看護学生を動機づける方法として示された。以下に具体的内容例を示す。

「クラスでのプレゼンテーションやセミナーを通してピアラーニングの経験がたくさんある。学生が学生を教えるので、私はいつも一緒に学んでいると感じる(No.10)」

「私には一緒に勉強をする友達がいる。例えばテストの前の晩は一緒に勉強する。それがとても助けになっている(No.1)」

「私には友達がいて、彼女はとてもよく勉強する。そしていつも一緒に勉強する。それがお互いを動機づけていると思う(No.7)」

3) 【教員の姿勢】

『パーソナリティ』『講義の工夫』『肯定的強化』『支持的関わり』といった学生に対する教員の姿勢もまた、看護学生を動機づける方法として示された。具体的内容例を以下に示す。

「教授たちは、専門分野の知識に優れている(No.4)」

「教授たちは、とてもよくてとてもすばらしい、そしてあらゆることを説明してくれる(No.7)」

「私は教員のパーソナリティだと思う(No.8)」

「教授達は、授業をとっても興味深いものにしていて、3時間の授業がとても早く過ぎる(No.7)」

「強化だと思う。上手にやったとき上手にできたということを先生は教えてくれる。それがもっと上手にやりたいし上手にやり続けたいと思わせるのだと思う(No.2)」

「実習のとき、集中するのが難しくなったときに、オーケイ、私と話をしましょうと、しばらく話をしてくれたり、具合が悪くて課題の提出が間に合わなくなったとき締切りを2日延ばしてくれたり、そういうことは動機づけてくれると思う(No.1)」

4) 【看護経験からの学び】

『看護経験を聞くこと』『臨地実習』といった看護の経験に基づいた学びも動機づける方法として示された。教員から看護経験を聞くことで看護を具体的にイメージしたり、実習での経験を通して看護の実際について学びを得ることが、動機づける方法となっていた。具体的内容例を以下に示す。

「教授達が彼女らの経験を話してくれること、それは

表1 看護学生を動機づける方法

サブカテゴリ	カテゴリ
看護師になりたい思い	看護師志望
ピアラーニング	友人との学び
ピアサポート	
パーソナリティ	教員の姿勢
講義の工夫	
肯定的強化	
支持的関わり	
看護経験を聞くこと	看護の経験からの学び
臨地実習	
リフレッシュ	リフレッシュ

その状況で問題をどのように扱えばよいかを考えることになるので、自分が進んでいく将来、実際に患者をケアしたり病院で働くことについて考えることになる (No. 7)』

「本当に動機づけるものは、臨床の場で何かまだ学習していないことや学習したばかりのことに会ったとき、本当にエキサイトする。例えば私の患者の一人は弁置換をした患者で、それはちょうど学習したばかりだった (No.1)』

5) 【リフレッシュ】

これは勉強の合間に休憩を取り入れて『リフレッシュ』すること示すものであった。

「ちょっと休憩をとることが動機づけの役に立つ。例えば疲れた時、休憩を取りコンピューターゲームをする。すると再びエンジンがかかる。ちょっと街に出ることもいい (No.1)』

3. 効果的な看護教育ストラテジー

アメリカで看護を学ぶ学生の考える効果的な看護教育ストラテジーとして【構造化されたカリキュラム】【看護経験の活用】【工夫された講義】【学生中心の学習方法】の4つのカテゴリーが見出された (表2)。

1) 【構造化されたカリキュラム】

学生にとって大学の学習を積み上げるために、授業構成がばらばらではなく、『教育内容の明瞭な構造』を持つことが効果的な教育ストラテジーとして示された。

「この大学は焦点をはっきりしているのがとてもよい。異なる構成要素が一緒になると混乱するが、精神科看護、小児科看護、老年看護とそれぞれ焦点が異なるので混乱しない。きっちりした構造化されたシステムがよい (No. 5)』

表2 効果的な看護教育ストラテジー

サブカテゴリー	カテゴリー
教育内容の明瞭な構造	構造化された教育カリキュラム
臨地実習	看護経験の活用
看護経験を取り入れた講義	
具体例を提示した講義	工夫された講義
パワーポイントを使用した講義	
ユーモアを取り入れた講義	
学生の批判的思考を促す講義	
ピアラーニング	学生中心の学習方法
自己主導型の学習	
自己主導型の技術演習	

「この大学はとてもよいプログラムを持っている。私は1年生だけど、看護の特徴は何かということから始まる、それから医療分野について学習をする。1年生が始まったところだけど、看護の専門分野ではもっと自信を持っているようになると思う (No.7)』

2) 【看護経験の活用】

『臨地実習』『看護経験を取り入れた講義』といった、自分自身の看護の経験や教員・看護師といった身近な他者の看護経験を講義に取り入れ、看護師になるための自己の成長に直結する看護経験を活用することが効果的な看護教育ストラテジーであると述べているもので、以下のような内容があった。

「多くの経験から多くを学習する。病院に行き、看護師が患者をどのようにケアするのかみること (No.7)』

「教授が経験を加えて講義を興味深いものにすること。教授たちが個人的な経験を話すことは、自分たちが学習していることを適用させることであり、教授たちは経験を通してどのように適用させるかを示してくれている (No.2)』

「私はゲストスピーカーが好き。実際的でとても役に立つと思う。例えば、小児科の看護師が教室に来て、彼女の経験を話すと教科書以上のものをもたらす。だからそれはとても役に立つ (No.5)』

3) 【工夫された講義】

効果的な看護教育ストラテジーとして学生の学習を支援するための講義に関する具体的な方法も示された。それらは『具体例を提示した講義』『パワーポイントを使用した講義』『ユーモアを取り入れた講義』『学生の批判的思考を促す講義』の4つであった。以下に具体的内容を示す。

「映画や文学などアウトサイドの資料は効果的、ただ文字を読むだけではない効果があると思う (No.3)』

「ビデオ、例を示すようにビデオでたくさんのクリップを示す。例えば静脈注射のようなことをどのようにするか、でも長くなると退屈するので注意をひくようなちょっとした変化が必要 (No.5)』

「パワーポイントはとてもよい。それはスライドブックになっていて、前の晩に予習できるし、テストに備えるためにも役に立っている (No.4)』

「パワーポイントとその資料、さらにライン入りのものなら完璧。忘れてしまうかもしれない大事なポイントを書き込むことができるから好き。とってもよいと思う (No.5)』

「先生がジョークをいうこと、それは目覚めさせてくれるし、興味を持続できる (No.1)』

「時々ユーモアを加えておもしろくすることは、講義を効果的にすると思う (No.9)』

「クリティカルに考える機会を与えること。そのスキルは臨床で役に立ち、重要だと思う (No.10)」

4) 【学生中心の学習方法】

学生に課題と自己学習のできる環境を与え、学生主導型の学習を促進するもので『ピアラーニング』『自己主導型の学習』『自己主導型の技術演習』が示された。

「自分で学習し、それからグループワークをすると色々なフィードバックがあって、異なる考えとディスカッションすることは興味深い (No.3)」

「先生は看護過程の課題をたくさん出す。それで上達していく。これをたくさんするうちに簡単にできるようになる (No.6)」

「独立した学習。私たちは自分自身で研究や論文作成をしないとけない。それによって多くを学び、自信につながると思う (No.9)」

「私は実習室が好き。それは本当に役に立つ実際的なものだと思う。例えばバイタルサインの練習をしたいときに実習室に行けば、実習室のスタッフがよく助けてくれる (No.3)」

「実習室で練習すればするほど、プロフェッショナルになっていくように思う (No.8)」

V. 考察

1. 看護学生を動機づける方法

アメリカで看護を学ぶ学生を動機づける方法として【看護師志望】【友人との学び】【教員の姿勢】【看護経験からの学び】【リフレッシュ】の5つのカテゴリーが明らかとなった。

【看護師志望】は、看護師になりたいという思いであり、看護学生を動機づける基盤となっているものと考えられた。

【友人との学び】は、友人が看護学生として共に成長するために学習面と情緒面の両方でサポートになっており、同じ立場で学ぶものの相互作用から受ける刺激が動機づけとなっていることが窺えた。

また、【教員の姿勢】の『パーソナリティ』からは教員が尊敬できる存在であり、『講義の工夫』からは学生を学習面で学生をサポートし、『肯定的強化』や『支持的な関わり』からは、学習面だけではなく情緒的なサポートとなっていることが窺え、このような【教員の姿勢】が看護学生を動機づけていることがわかった。

さらに、【看護経験からの学び】は、看護を志向している学生にとっては、看護に対する具体的なイメージを与え、看護に対する理解を深めることに

つながり、このことがいっそう学生の看護に対する興味や関心を喚起し、学生を動機づけていくものと考えられた。

一方、看護の学習内容は多く、課題も多く与えられている学生は適当に【リフレッシュ】し、学習と休息のバランスをうまくとることも看護の学習を継続するための方法として意義のあるものとなっているようであった。

以上のことから、アメリカで看護を学ぶ学生は、看護師志望を基盤として友人と教員からの手段的・情緒的サポートを受けること、看護経験からの学びによって動機づけられ、リフレッシュによって困難な状況とのバランスをとりながら、看護師となっていく自己の成長を動機づけられているのではないかと考えられた。

Luparell (2005) は、準備性や動機の低い学生の増加がクラスルームの秩序の低下の一因となっていると看護教員が指摘していることを報告している。今回対象となった学生は、自らが動機づけられる方法を生き生きと語っていたが、対象を拡大することで、動機の低い学生では本結果とは異なるカテゴリーが見出される可能性もあると考えられる。

2. 効果的な看護教育ストラテジー

本研究の結果、学生が自分自身の学習プロセスを理解できるよう【構造化されたカリキュラム】を提供し、【看護経験の活用】により看護師としての実践能力やアイデンティティを育めるように刺激し、【工夫された講義】により学生の学習内容に対する理解や学習への興味・関心を喚起し、【学生中心の学習方法】として学生主導型の学習ができるように課題を提示する、そのような学習環境を整えることが学生にとって効果的だと認識される看護教育ストラテジーとなっていることが明らかとなった。

Zygmunt and Schaefer (2005) は、Conti (1990) の学習者中心学習の原理をもとに学習者中心学習環境を創造する6つの原理を明らかにした。その原理には、教員と学生の信頼関係を築くこと、学生と教師との間の対話を生み出すグループワークやケーススタディの分析といった積極的な学生主導型の学習を促進すること、学習における学生の経験を尊重すること、講義に対して様々な工夫をこらし個々の学生のニーズに合わせるなどが含まれる。本研究で明らかとなった【看護経験の活用】【工夫された講義】【学生中心の学習方法】は、このような学習者中心学習環境を創造する原

理に合致すると考えられる。従って、本研究結果からは、学生は学習者中心アプローチに対して肯定的であり、学習者中心アプローチは学習プロセスに大いに満足する学生を生み出すというChipas (1995) の所見を支持するものといえる。

しかしながら、Taylor (1997) は、自己主導型学習によって獲得した知識の十分さに懸念を抱く学生がいることを示した。また、わが国においても大平ら (2005) は助産学演習においてPBL (Problem-based-learning) を志向した少人数グループによる学習により主体的学習態度が育まれる反面、基礎的知識の定着には個人差が大きいことを課題として述べている。本研究において、学生は学習者中心アプローチに対して肯定的な傾向を示したが、知識の定着の側面からは調査していない。従って、今後は知識の定着の側面からも検討を加える必要がある。

3. 日本での学習者中心アプローチの適用について

本研究では主に講義演習に関連して学習者中心アプローチに対する肯定的な示唆が得られた。そこで、看護教育の講義と演習に限定してわが国の看護教育における学習者中心アプローチの適用について検討する。

アメリカで看護を学ぶ学生は、学習者中心アプローチを肯定的にとらえていることが窺えた。アメリカでは個人の独立性が尊重され、大学教育以前の基礎教育課程から自己主導型の学習が行われている。そのため、学習者中心アプローチに基づく自己主導型学習に対する抵抗は少ないものと考えられる。

一方、日本においては、義務教育から高等学校に至るまで教員中心アプローチでの学習を積み重ね、大学受験対策のための学習は学生の学習に対する受け身の姿勢を形成しているものと思われる。従って、学習者中心アプローチ、とくに自己主導型の学習には抵抗があるのではないかと考えられる。河相ら (2007) は、歯学教育において講義形式の講義とPBLとを比較し、学生はPBLに対して消極的であったことを示唆している。

中山 (2006) は、現在の看護教育についてPBLなど学生の主体的学習を促進する教育のように教育者中心から学習者中心への学習へと転換が図られつつあると指摘していることから、今後日本においても学習者中心アプローチに対する学生の態度を検討する必要があると考えられる。

VI. 本研究の限界と課題

今回は、広大なアメリカにおいて、東部の1大学10名の看護学生の認識を明らかにしたものであり、一般化が困難であることが限界のひとつである。

また、筆者は英語を母国語としていないためにインタビューやデータの解釈において不足が生じている可能性が否めないことも本研究の限界である。

本研究は、アメリカという文化の異なる国での調査であるため、研究結果を日本に適應するために、今後は日本の看護学生を対象とした調査を行い、本研究と比較することが課題のひとつである。学生の学習スタイルは日米では異なっていると考えられるため、この検討においても文化的な差異を考慮して行う必要がある。

VII. まとめ

アメリカで看護を学ぶ学生10名を対象に看護学生が考える動機づける方法と効果的な看護教育ストラテジーについて調査したところ以下の結果を得た。

1. 看護学生を動機づける方法として【看護師志望】【友人との学び】【教員の姿勢】【看護経験からの学び】【リフレッシュ】の5つのカテゴリーが明らかとなった。アメリカで看護を学ぶ学生は、看護師志望を基盤として友人と教員からの手段的・情緒的サポート、看護経験からの学びによってこの動機づけられ、リフレッシュによって困難な状況とのバランスをとりながら、看護師となっていく自己の成長を動機づけられているのではないかと考えられた。
2. 看護学生が考える効果的な看護教育ストラテジーとして【構造化されたカリキュラム】【看護経験の活用】【工夫された講義】【学生中心の学習方法】の4つのカテゴリーが明らかとなった。この結果は、アメリカで看護を学ぶ学生は、看護教育において学習者中心アプローチに肯定的であることを示唆した。

謝辞

本研究を実施し、まとめるにあたり多大なる助言と支援を下さったDr. Nancy Sharts-Hopko, Dr. Masako Hamada, Mrs. Debra Hooverおよびイン

タビューに快く応じて下さったA大学看護学部の学生の皆様に深く感謝いたします。

また、本研究は平成17年度大阪府立大学若手研究員在外研究制度の助成により実施した。ご協力下さいました大阪府立大学およびA大学関係者の方々に感謝申し上げます。

なお、本研究の要旨は日本看護学教育学会第17回学術集会にて報告した。

引用文献

- American Association of Colleges of Nursing (1998) : The Essentials of Baccalaureate Education for Professional Nursing Practice. Washington DC.
- Burnard, P., & Morrison, P. (1992) : Students' and Lecturers' Preferred Teaching Strategies. *International Journal of Nursing Student* 29(4), 345 - 353.
- Callister, L. C., Matsumura, G., & Lookinland, S. et al. (2005) : Inquiry in Baccalaureate Nursing Education: Fostering Evidence-Based Practice. *Journal of Nursing Education* 44(2), 59 - 64.
- Chipas, A. (1995) : Do current educational programs address critical thinking in nurse anesthesia? *Journal of the American association of Nurse Anesthetists* 63(1), 45 - 49.
- Clark, C. L. (2004) : The Professional Socialization of Graduating Students in Generic and Two-Plus-Two Baccalaureate Completion Nursing Programs. *Journal of Nursing Education* 43(8), 346 - 351.
- Conti, G. (1990) : Identifying your teaching style. In M. Galbraith (Ed), *Adult learning method* (pp.79 - 96). Malabar, FL : Krieger.
- 河相安彦, 矢崎貴啓, 松丸悠一他 (2007) : 講義および問題解決型学習の双方で総義歯学を履修した学生の学習効果に関する比較検討. *日本補綴歯科学会雑誌* 51(3), 572 - 581.
- Luparell S. (2005) : Why and How We Should Address Student Incivility in Nursing Programs? Oermann, M. H., & Heinrich, K. T. Springer (Ed). *Annual Review of Nursing Education Volume 3, 2005 - Strategies for Teaching, Assessment, and Program Planning* (pp.23 - 36). Publishing Company, New York.
- Mawn, B., & Reece, S. M. (2000) : Reconfiguring a Curriculum for the New Millennium : The Process of Change. *Journal of Nursing Education*, 39(3), 101 - 108.
- 中山和弘 (2006) : eラーニングによる教育者中心から学習者中心の学習への転換. *看護* 58(4), 86 - 88.
- 大平光子, 井端美奈子, 町浦美智子他 (2005) : 主体的学習態度を育む教育方法 - 助産学演習における少人数グループワークの試み. *大阪府立看護大学紀要*, 11(1), 23 - 29.
- Schaefer, K.M., & Zygmunt, D.M. (2003) : Analyzing the teaching style of nursing faculty: Does it promote a student-centered or teacher-centered learning environment?. *Nursing Education Perspective*, 24(5), 238 - 246.
- Zygmunt, D.M., & Schaefer, K.M. (2005) : Making the Transition from Teacher-Centered to Student-Centered Instruction : A Journey Taken by Two Educators. Oermann, M. H., & Heinrich, K. T. Springer (Ed). *Annual Review of Nursing Education Volume 3, 2005 - Strategies for Teaching, Assessment, and Program Planning* (pp.125 - 142). Publishing Company, New York.